

平成 30 年度

地域人財育成基金 活動報告書

1. 全学部を対象とした地域におけるフィールドワーク(現地での調査・研究)、サービスラーニング(社会貢献への実践による学習)の奨励と実施

仏教フィールドワーク

仏教フィールドワークは、各地の仏教寺院をはじめとする文化財や遺跡・歴史的建造物をめぐり、仏教の歴史的な展開や信仰の姿に直接触れ、各自関心事項について考察を加えることを主眼としています。

平成30年度は「山梨の寺院神社をめぐり、各地に展開した仏教の歴史と信仰に触れ見聞を深める。」をテーマとし、学生31名、父母一般6名が参加し、8月29日～31日まで山梨県の身延山久遠寺や甲斐善光寺、方光寺などを巡りました。

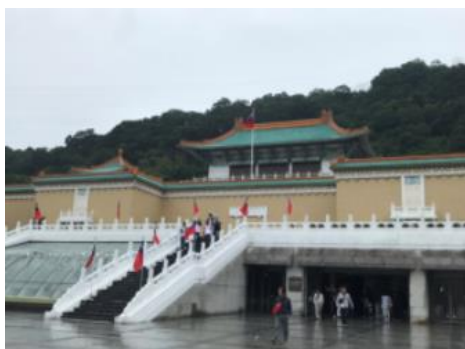
人間環境学科

1年生は、山形県長井市にて前半(7月29日～8月1日)と後半(8月1日～8月4日)の2グループに分かれ、3泊4日のフィールドワークを実施しました。「土と自然とまちづくり」をテーマに「山形県・長井市レインボープラン」のフィールドに出向き、現地でフィールドワークをしながら「レインボープラン」がめざす循環型社会への形成過程を学びました。そして、長井市の里山を活かす取組等を調べ、「住民自治」と「参加」そして「まちづくり」の現状を学修しました。

2年生は、宮城県南三陸町で9月12日～15日に合宿形式によるフィールドワークを実施しました。フィールドリサーチの技法を学び、現地の状況を知り、実際に地元の方からヒアリングを行うなど、現地視察を行ないました。

歴史学科 哲学・宗教文化コース

宗教文化に関する調査研究を行うことを目的に、平成30年度は10月30日～11月2日まで台湾におけるフィールドワークによる調査を行いました。現地では、寺や博物館、記念館の訪問、文化村を訪問して踊り等を体験して、歴史・伝統文化を学びました。また、街を散策して現地の環境視察を行ないました。



2. 東日本大震災等被災地復興支援活動

南三陸まなびの里 いりやど

「南三陸まなびの里 いりやど」は、本学の支援により建設され、地元有志により設立された「一般社団法人南三陸研修センター」が運営する宿泊研修施設です。

「いりやど」という名称は、建物が立地する地区「入谷」と「宿」、さらに「IRIYA DO!! (やります、入谷!）」という復興に向けた力強い想いを込めて名づけられています。

2013年3月にオープンし、この場所がコミュニティ再生の核となり、学生たちの学びの場となっています。平成30年度は復興支援金として1200万円を寄付いたしました。

東北再生「私大ネット36(さんりく)」

本学が運営幹事校を務め、私立大学27校が加盟しており、東日本大震災後の復興にあたり、教育的視点から継続的な支援を行っていくために発足した連携活動団体です。2012年4月に設立、同年9月よりプレプログラムとして宮城県南三陸町をフィールドとした学びのプログラム「南三陸スタディツアー」を開始し、当初は、がれき撤去などの復興ボランティア活動が中心でした。現在は現地の復興状況とともに活動の内容も変化し、大正大学のエリアキャンパスである「南三陸まなびの里 いりやど」を拠点とし、南三陸町の一次産業、商店街、自然環境などについて現地の方にお話を伺う等、実際に体験して現地の人々の交流を通して東北復興の現状や今後の課題について学んでいます。

平成30年度実施

【夏のスタディーツアー】

- ①テーマ：Reborn（再生）～セルフケア力を養う～
実施日：平成30年8月17日～20日
参加者数：33名
- ②テーマ：南三陸ソルトツアー ―風土と人々に出会う塩の旅―
実施日：平成30年8月27日～30日
参加者数：16名
- ③テーマ：本当に必要な“もの”づくりを考える
実施日：平成30年8月17日～20日
参加者数：12名

【春のスタディーツアー】

- ①テーマ：君たちはどう生きるか
実施日：平成31年2月11日～14日
参加者数：9名
- ②テーマ：南三陸の魅力を情報発信しよう！
実施日：平成31年2月25日～28日
参加者数：3名



3. 地域構想研究所における地域活性化についての研究と社会実装事業

プロジェクト“つなぐ” ～新しい暮らし方、働き方を求めて～

少子高齢化、人口の都市部への集中が進展する中、各地域がそれぞれの特徴を活かした自律的で持続的な社会を創生することが重要な課題となっており、各地方自治体においては、地方創生に向けた様々な取組が実施されています。一方、企業においても、地方創生に関わる組織を社内に立ち上げるなど、地方創生に係る取組を積極的に行おうとする企業が現れています。本研究においては、企業と地方自治体とが緊密に連携・協働してそれぞれの強みを活かし、様々な観点から地方創生の可能性と課題について共創研究を行い、新たな地方創生の可能性を創出することを目的としています。

【平成 30 年度企業研究会開催実績】

※第 1 回～第 4 回は平成 29 年度に開催しました。

第 5 回

- ・群馬県南牧村の現状や課題、企業との連携・協働の可能性—森林の活用、空き家の活用について
(南牧村村長・長谷川最定氏)
- ・ビックカメラと連携した、石狩市フォトコンテストについて
(石狩市商工労働観光課観光担当課長・板谷英郁氏)
- ・人生 100 年時代の働き方—長期雇用で働く社員のために—
(地域構想研究所教授・金子順一氏)

第 6 回

- ・現状や課題、企業との連携・協働の可能性について
(佐渡市副市長・藤木則夫氏、企画財政部企画課政策推進係・松本亜沙美氏、地域振興課主事・鍵谷舞氏)

- ・テレワークを活用した地方移住の可能性ー内田洋行と静岡市の連携のお取組について
(静岡市企画局次長・前田誠彦氏)
- ・リモートワークに関する調査 (大正大学地域構想研究所・塚崎裕子)

【調査の実施】

リモートワークに関する調査の実施

観光によるまちづくり 官・学・公・民連携による新しい地域創生戦略プロジェクト

～日本版DMOセミナー～

本事業では、日本版 DMO セミナー、現地視察、特別セミナー等を定期・不定期的に開催しています。学術研究成果と国内外の成功事例を踏まえながら、地域経営、観光マーケティング、組織作り、財源確保といった日本版 DMO 推進の諸課題について参加者と議論し、新しい視座と手法を研究しています。現地セミナーを通して地域づくり現場での実践を把握するとともに、日本版 DMO に関わる多様な人材の全国的ネットワークを構築していきます。その成果を地域創生学部の教育目標達成、並びに本学のブランディング力の向上に貢献できるよう取り組んでいます。

【平成 30 年度実施実績】

- (1) DMO セミナー・1 コース 全 10 回
- (2) DMO セミナー・2 コース 全 6 回
- (3) DMO 現地セミナー 全 2 回
- (4) 日本版 DMO 特別セミナー
- (5) 全国観光圏推進協議会 全 5 回
- (6) 観光地域づくりマネージャーレベルアップ研修 全 3 回

地域ソリューション情報センター ～地域ブランディング研究事業～

地域構想研究所の研究テーマである「地域資源を活用した“まち”ブランドの確立」で達成するためには新たに地域資源の掘り起こしをおこない、地域の情報やデータを集積し、また公開されている基本データやオープンデータ、ビッグデータ等との対比による分析が必要となります。そのために、地域構想研究所内に「地域ソリューション情報センター」準備室を設置し、地域情報をデジタル化して集積、およびデータベース化についての研究と実装をおこないます。

【事業実績】

平成 30 年度は、平成 29 年度の実施で見えてきたデジタル化とデータ保管の課題に対して、データベース (以下 DB) 構築による課題解決を図ることを視野に入れて再検討を行ったため、本支援事業は平成 30 年度秋以降、データベース構築に向けた取り組みを進めました。

大正大学グリーンインフラプロジェクト

本学が立地する豊島区は、東京 23 区で唯一消滅可能性都市とされ、子育て世代や女性にとって魅力ある、近い将来発生することが予想されている災害のために強い街づくりが大きな課題となっています。豊島区では、緑や自然をうまく活用しながら、街の魅力アップを図りつつ、災害に強い街づくりを目指した施策を展開しています。このようなアプローチは、「グリーンインフラストラクチャー（グリーンインフラ）」とも呼ばれています。わが国政府においてもこれを推進することが国土利用計画や社会資本整備基本計画の中に盛り込まれています。こうした背景の中、本研究プロジェクトは、大正大学が豊島区におけるグリーンインフラ研究の拠点となっていくために、キャンパス屋上へのルーフトップガーデンの整備や、それに関連した各種の研究活動や教育活動を実施していくことを目的としています。

【事業実績】

- ・平成 30 年 6 月～ NPO 法人 SLC と連携して小学生による収穫体験（ジャガイモ、とうもろこし、さつまいも）を実施
- ・平成 30 年 9 月 豊島区立朝日小学校校長先生が視察
- ・平成 30 年 11 月 鴨台祭で、学内で収穫したサツマイモを原料にした大学芋「大正大学芋」を販売
- ・平成 30 年 10 月～ 朝市にて収穫物を販売開始
- ・平成 30 年 11 月 銀座ミツバチプロジェクトが開催する「芋リンピック」で 2 位入賞
- ・平成 30 年 12 月 東京大学農学部田無農場で共同作業

都市における援助希求の多様性に対応する公私連携ケアモデルの研究開発

本研究開発は、孤立化が進み、市民の援助希求の適切な把握、介入、支援が困難になっている都市型コミュニティにおいて、市民の安全な暮らしをつくるための「公」と「私」の連携モデルを構築することを目指しています。実施にあたっては、東京大学大学院医学系研究科、東京大学大学院工学系研究科、東京大学大学院人文社会系研究科、国立研究開発法人 国立精神・神経医療研究センター、上智大学グリーンケア研究所とともに共同で研究開発を進めます。このうち、大正大学地域構想研究所 BSR 推進センターは、僧侶や寺院などの宗教者、宗教施設が、地域包括ケアシステムの一部として機能するよう、それらの潜在的機能の抽出を行い、多様な援助希求に対応する集いのモデルの生成を図るだけでなく、町会などの地縁組織と NPO、地域包括支援センター、社会福祉協議会との連携を促し、既存のセーフティネットの強化を担当します。現在、研究開発は、平成 31 年度の社会実装を目指し、継続中です。

※地域構想研究所の詳細については以下をご参照ください。

HP : <https://chikouken.jp/>

実績 : <https://chikouken.jp/offer/>

4. 地域をフィールドとした大正大学ブランディング研究活動の実施

BSR推進センター

現在、日本では少子高齢化の中で地域力が低下し、各地において種々の問題が顕在化しています。地域における人材不足は、地域課題への対応が遅れるだけでなく、地域の空洞化や課題の複雑化をもたらす懸念があります。一方、日本には7万7千カ寺の寺院があり、また、本学は、天台宗、真言宗豊山派、真言宗智山派、浄土宗によって設立された背景を持ち、全国各地に寺院を基盤としたネットワークを有します。そこで、BSR推進センターでは、寺院を核としたコミュニティづくりを推進することで、地域の実情に沿った多様な地域創生の実現を目指します。本センターでは、以下の研究開発事業を実施します。

- ①Buddhist Social Responsibility（仏教者の社会的責任）の概念の下、日本各地に存在する仏教寺院を、文化、教育、福祉、防災における地域資源とみなし、地域創生に寄与する寺院の社会参加のあり方を収集、分析をすることで、寺院の潜在的役割の見える化をめざします。
- ②これら成果を『地域寺院』などの刊行物や地域寺院倶楽部シンポジウム、研究員による講演などを通じ、広く社会へ発信することで、地域に根差した寺院の活動をエンパワメントします。

【事業実績】

- ・地域寺院倶楽部会報『地域寺院』編集平成28年6月、月刊『地域寺院』を創刊。
平成31年3月時点で34号を刊行。
- ・シンポジウム2回開催
- ・講演8回開催
- ・学術発表5回開催

※詳細は以下のURLをご参照ください。

<https://chikouken.jp/project/bsr/>

すがもプロジェクト

一般社団法人「コンソーシアムすがも花街道」が実施する東京と地方との共生事業

～地域資源が集積する新たな商店街の構築に向けて～

本学の研究所では、東京（旧中山道沿線のすがも3商店街）と地方（大正大学と連携協定を結ぶ自治体：平成30年4月現在61市町村）が相互に交流し、双方が独自の魅力ある地域づくりを推進することによって、東京と地方との新しい共生の一類型を構築するために産・学・官・民による社会実装「すがもプロジェクト」を始動させました。この事業は、当該地域において地域貢献を実施する学校法人大正大学と東京都豊島区の承認と支援を得て、本学および、すがも3商店街が協働して設立した一般社団法人コンソーシアムすがも花街道を事業主体として推進しています。地域製品の販売や情報発信等を支援することによって、連携自治体の事業者の商品開発、販路拡大の向上をはかり、自治体の信頼とネットワークを“東京・巣鴨”という拠点を通じて具現化し、地域の振興に寄与すること

をビジョンとして進めています。巣鴨地域の集客力の高い地点に共同販売拠点（アンテナショップ）を設置して、各自治体の地域産品等の販売店舗を設け、地域活性化に寄与することを目的とした事業です。また、地域産品の販売のみならず、商品のテスト販売、売り上げ動向や消費者・バイヤーの声をフィードバックするなど、商品力向上支援を行い地方創生の助力となる活動をしています。

【実施実績】

●座・ガモール 2 号店 「京都 すがものはなれ」

本学と京都市がアライアンス(包括連携協定)契約を締結し、座・ガモール 2 号店を京都市公認のアンテナショップとなりました。11 月 2 日のオープニングの式典には京都市の門川市長が出席しました。



詳細は以下の URL をご参照ください。

<https://chikouken.jp/project/activity3/>

5. 豊島区との共創協定に基づく地元巣鴨における 「生活」「教育」「復興」の 3 課題解決のための諸活動

あさ市

本学では 2014 年 6 月から、毎月第 3 土曜日（夏季を除く）に開催している花会式にあわせて開催しています。このイベントは、現在本学で推進している地域連携・社会貢献事業の一環として行なっているもので、全国から旬の食材を集めて販売し、巣鴨や近隣地域の活性化に繋げることを目的としています。本学の連携自治体である全国各地の地域で作られた新鮮な野菜や加工品などの物産品をご購入いただけます。また、部活動やサークルに所属している学生のパフォーマンスの場としても活用されており、幅広い年齢層が楽しめるイベントとなっています。スタート以来、花会式とあわせて多くの地域住民の皆さまにご来場いただき、地域の恒例イベントとして賑わっています。

平成 30 年度においても毎月第 3 土曜日に開催し、常連の方が増えてきました。



すがも鴨台花まつり

お釈迦様の生誕を祝う仏教の年中行事「花まつり」にちなんで毎年 5 月に開催される行事です。巣鴨駅から本学の立地する西巣鴨までの 3 つの商店街を活性化させ、地域の魅力を発信させることが目的です。巣鴨駅前から大学までの道にフラワースポットを設置し、3 つの商店街を結ぶ道のを華やかに彩ります。

平成 30 年度においても、商店街にフラワースポットの他に花を設置し、学生たちが大学から巣鴨駅までお練り歩きをしました。



ドサッと佐渡

地域創生学部の学生は各年次の秋に、40 日間の地域実習を実施しています。長期に亘る地域実習は、独自の連携自治体ネットワークによって支えられ、各実習地自治体と連携し、教員、現地実習指導講師、生活指導員を配し、行政、産業、生業、コミュニティなどの現場を通じて、地域の強みと課題を知り、その解決に行動する経験を高めています。

その一環として、2018 年 10 月 27 日（土）に地域創生学部の学生が主催する秋イベントの第 3 弾『ドサッと佐渡』を巣鴨キャンパスで開催しました。本イベントは、地域創生学部の 2 年生が「都市と地方の共生」をテーマに、昨秋（1 年次）に地域実習を行った全国 12 地域の魅力を紹介する取り組みです。今回は、新潟県佐渡市の協力の元、佐渡の伝統である佐渡の太鼓芸能集団「鼓童」の披露、巣鴨地藏通り太鼓チーム「鼓友」と「鼓童」のコラボレーションに加え、12 地域の特産品を地域創生学部の学生が販売します。地域実習で得た人財とノウハウを活かし、企画・運営全てを学生が行い、多くの地域の方々が訪れました。



6. 地域志向の私学との全国規模によるネットワーク構築と 学生の対流・交流事業の推進対流促進

地方と東京圏の大学生対流促進事業の採択

本学は、平成 30 年度内閣府「地方創生支援事業補助金（地方と東京圏の大学生対流促進事業）」において、静岡産業大学と島根大学と 3 大学で共同提案した「フィールドから学ぶ産学官協働 3 大学地域人材育成プロジェクト」が平成 30 年 6 月 11 日（月）付で採択されました。

本プロジェクトは、東京圏にある大正大学と地方に所在する静岡産業大学、島根大学および藤枝市、益田市とが協働し、学生を対流させることで、産学官連携によるフィールドワークや単位互換を前提とする科目履修を行い、現在地域が抱えている諸問題の発見と課題解決に向けて、提案力の養成を行います。また、こうした事業を契機としてさらなる大学間ネットワークを構築・拡大していくことによって、学生の交流を深め、東京の学生が地方へ還流・定着し、地域創生をけん引する高度で知的な職業人として活躍する人材の輩出を目指します。

平成 30 年度実績

●短期プログラム（春季）

東京の大学生が、地方の可能性、力を知る

- ・大正大学（東京）⇒藤枝（静岡産業大学）

【実施期間】平成 30 年 8 月 27 日～8 月 31 日

【テーマ】ICT による地方創生の可能性調査

【目的】長期プログラムに必要な知識の修得とテーマの課題調査

- ・島根大学⇒益田

【実施期間】平成 30 年 8 月 20 日～8 月 24 日

【テーマ】益田の力をより高めるためには

【目的】長期プログラムに必要な知識の修得とテーマの課題調査

●長期プログラム（秋学期・単位互換）

地方の大学生は東京、東京の大学生は地方で、協定に基づく「単位互換」プログラムを通じた学生間対流を実施

・大正大学 プログラム

【実施期間】平成 30 年 9 月 10 日 11 月 6 日

【テ ー マ】益田の力をより高めるためには

・静岡産業大学 プログラム

【実施期間】平成 30 年 9 月 10 日 11 月 6 日

【テ ー マ】地域の魅力と力を知る対流

・島根大学 プログラム

【実施期間】平成 30 年 9 月 10 日 11 月 6 日

【テ ー マ】地域の魅力と力を知る対流

●短期プログラム（春季）

東京の大学生が、地方の可能性を見つけ、提案する

・藤枝 ⇒ 静岡産業大学

【実施期間】平成 31 年 2 月 25 日～3 月 2 日

【テ ー マ】「地域人」に必要な「描く力」を養う～未来予想図の提案～

・益田 ⇒ 島根大学

【実施期間】平成 31 年 2 月 18 日～2 月 22 日

【テ ー マ】ひとが集い、新たな価値を生み出すために必要なことはなにか

●フィールドから学ぶ産官学協働

3 大学地域人材育成プロジェクト活動報告シンポジウム（平成 30 年 3 月 11 日）

静岡産業大学・島根大学と合同で「フィールドから学ぶ産官学協働 3 大学地域人材育成プロジェクト活動報告シンポジウム」をアルカディア市ヶ谷（私学会館）で開催しました。内閣府の「地方と東京圏の大学生対流促進事業」として採択された取組について、学生からの活動報告と基調講演、パネルディスカッションを行いました。当日は 98 名の自治体、企業、高校、大学の関係者が参加しました。

活動状況の詳細は以下の URL をご参照ください。

<https://www.tais.ac.jp/regional-project/>



7. 地方公務員試験対策講座の充実

学生支援部就職課では、公務員対象者向けに1年生から受講できる講座等を開講しています。また、3年生から始める本学と大原学園が連携している公務員講座対策講座もあります。その他、学内では公務員対象者ガイダンスも実施しています。

【平成30年度開講実績】

●講座

(学内)

- ・就職数的処理 基礎講座
 - ・3年生 公務員プレ講座
 - ・教養政治経済講座
 - ・公務員福祉専門職対策講座
- (大原学園)
- ・公務員試験対策講座 (大卒程度)
 - ・公務員試験対策講座 (教養型)
 - ・公務員試験対策講座 (公安)

●ガイダンス

- ・クラスセミナー (2年生対象・計4回実施、3年生対象計7回実施)

公務員の業界研究の一環として実施しています。2年生には、公務員の仕事や採用試験について説明し、3年生には、政策研究やグループワーク、公務員試験を合格した先輩の体験談を通じて公務員の理解を深め、面接や論文対策を行いました。

- ・面接対策講座 (3年生対象、2月実施)

面接時の基本的なマナーから、自己分析、志望動機の作成指導を行いました。

- ・試験対策併願ガイダンス (3年生対象、3月実施)

公務員の採用試験は、例えば道府県庁と政令市が同日に、埼玉の市町村は9割同日するなど、日程が決まっていて重複することも多いため、予め併願して受ける先を定めて、計画的に受けること等、公務員試験の受験テクニックを説明しました。

